

より快適な学生生活を目指した活動 —西東京市の施策が改善されるまでの経緯

青木 悠弥

(コミュニティ政策学科4年)

はじめに

私は大学等の学習環境を整えるために、2018年3月から2020年5月にかけて在住地の西東京市で政策改善を求める活動を行っていた。ここでは活動を始めたきっかけやプロセスをまとめている。今後卒業論文として、この活動を中心に文献調査やインタビュー調査を行い、考察を深めたいと考えている。なお文章内では、2019年に私が専門誌へ投稿した記事を参考としている箇所がある。これは活動をしていた当時の思いを正確に伝える目的で活用し、本文ではメールや市議会議事録等の記録を参考に内容を深めている。

私が改善を求めたのは、日常生活用具給付等事業の情報・意思疎通支援用具の品目の内、「点字ディスプレイ」の給付要件を定めている施策だった。日常生活用具給付等事業は厚生労働省のホームページで、市町村が行う地域生活支援事業の内、必須事業の一つとして規定されている。障害者等の日常生活がより円滑に行われるための用具を給付又は貸与すること等により、福祉の増進に資することを目的とした事業である。

視覚障害があり日常的に点字を使用している私が大学の学習に取り組むためには、点字ディスプレイが必須である。点字ディスプレイには様々な機種があるが、私が必要としていたのはパソコンに近い機能を持ったコンピューターだった。最新の機種ではマイクロソフトのWord、Excel、PowerPointやPDFデータを点字で読むことができ、点字でノートを書くこともできる。このようなコンピューターがあれば私は大学で、予め講義担当の先生からメールでレジュメを受け取り、講義中にそれを点字で読みながらノートを書くことができる。必要であれば、辞書を検索することもできる。

ただしそのような機能を持つ点字ディスプレイは30万円を超える製品が多く、実費負担するのは躊躇う金額だった。そのため日常生活用具の品目としている市

町村があるのだ。さらに当時、私が知っている大学生の点字使用者の先輩方は、ほぼ全員が点字ディスプレイを使用しており、購入することに困ったという話も聞かなかった（青木2019）。しかし私はこれだけ必要性を認識しつつも、大学入学当時に西東京市で点字ディスプレイの購入費の給付を受けることができないことを悩んでいた。そこで要望書を提出する個人的な要望活動から始め、視覚障害者の当事者団体の発足メンバーとしても活動したのである。

1. 他の自治体と比較した改善前の施策の内容とその課題

点字ディスプレイの給付要件は2020年5月に改正された。それ以前の西東京市の給付対象者は、「18歳以上の視覚障害及び聴覚障害の重度重複障害者」だった（西東京市2017）。つまり、視覚障害のみで、重複障害者に該当しない私は、当時点字ディスプレイを実費購入するしかない状況だった。

それでは私が要望活動を行っていた当時、他の市区町村はどのような要件だったのだろうか。以下の図1と図2は、私が要望活動をするにあたり、点字ディスプレイを販売している企業の担当者から提供していただいた資料を引用している。

なぜなら、西東京市の給付条件が2020年5月に改正されたように、自治体のホームページから改正以前の給付条件を調べることができないためだ。そのため2019年の2月に市議会議員の方と会う際に提示した参考資料を、企業から許可を得たうえで掲載することとした。

図1は東京都の地図である。点字ディスプレイの給付条件に「視覚障害単体」が含まれている東京都内の市区町村に色が塗られている。「視覚障害単体」とは、点字ディスプレイの購入費給付の対象者を表している。ここから東京23区と、町田市、国分寺市、狛江市、府中市、日野市、東村山市、小平市、多摩市、国立市、調布市、清瀬市、八王子市の12市では、条件はあったとしても視覚障害者に対して給付制度を実施していたことが分かる。それ以外の色が塗られていない市区町村では、点字ディスプレイが給付品目になっていないか、西東京市のように重度重複障害者ではないと給付対象としていなかったということになる。

(図1) 点字ディスプレイの給付条件に「視覚障害単体」を含む東京都内の市区町村



出典：ケージーエス株式会社（2019）「西東京市用資料～点字ディスプレイと日常生活用具について～」

続いて図2では、2019年2月時点で、西東京市と同規模の人口20万人以上の中核市となっていない都市で、視覚障害単体に点字ディスプレイの購入費給付を行っている自治体が多数あったことを示している。茨城県水戸市、大阪府吹田市や寝屋川市など、全国14府県22市で視覚障害者への給付が行われていた。

(図2) 西東京市と同規模の都市で視覚障害単体を対象に給付を行っている自治体

茨城県	水戸市	大阪府	吹田市、寝屋川市
群馬県	太田市、伊勢崎市	三重県	四日市市
埼玉県	川口市、春日部市、上尾市	島根県	松江市
神奈川県	厚木市、大和市	鳥取県	鳥取市
静岡県	富士市、焼津市	佐賀県	佐賀市
山梨県	甲府市		
長野県	松本市		
新潟県	上越市、長岡市		
愛知県	一宮市、春日井市		

出典：ケージーエス株式会社（2019）「西東京市用資料～点字ディスプレイと日常生活用具について～」

以上のように当時の東京都内には視覚障害単体でも給付を行っている自治体の方が多い状況だった。また西東京市と同規模の自治体で給付が行われている場合

が多数あった。このように自治体間の差があることに疑問を感じた私は、点字ディスプレイの購入費の給付を受けられるように活動しようと決めた。なぜなら学習環境が不便であっても、西東京市に働きかけを続けることで福祉政策について実践的に学べるのではないかと思い、将来同市に住むかもしれない後輩が困らないようにしたいとも考えたからである（青木 2019）。また当時私は、点字ディスプレイの購入について、健常者と障害者の学習環境の格差という問題を関連付けていた。私にとって時間をかけずに健常者と同等に講義の進行についていくためには最新の点字ディスプレイが必要だった。しかし障害者が自身の障害を補うために、健常者には必要のない費用的負担を負うことに疑問を抱き、30万円以上の点字ディスプレイを全て実費で購入することに躊躇いを感じていた。

この後記載する活動を経て、現在では西東京市の点字ディスプレイに関する給付要件は次のようになっている。「18歳以上の視覚障害及び聴覚障害の重度重複障害者（原則として、視覚障害2級以上、かつ聴覚障害2級の身体障害者であって、必要と認められるもの。）又は、18歳以上の視覚障害者のうち視覚障害の程度が1級又は2級であるものであって、日常的に点字を使用し、日常生活において職業上又は学業上特段の必要性が認められるもの」（西東京市2020）。それにより私は、約38万円の点字ディスプレイを1割負担で購入することができた。

2. 個人的な要望活動の過程

ここでは2020年5月の施策改善に向け、私個人が行った活動について記している。主に個人的に市に対して活動を行ったのは、2018年3月から2019年3月のおよそ1年間だった。この1年間は2つの期間に分けることができる。1つ目は3月から10月までで、施策を改善するためにはどうすれば良いのか情報が少ない期間だった。一方の11月から3月には、必要な助言やサポートをしてくれる方々と出会い、順調に活動することができた。

前半の情報が少ない期間において、まずしたことは市役所窓口への相談だった。2018年3月に西東京市障害福祉課の窓口へ相談に行った。7月には再び窓口に行き、点字ディスプレイがほしい旨を書いた手紙を手渡した。そこには、当時の私の大学での詳細な学習状況と、最新の点字ディスプレイが必要な理由も記した。しかし3月に要望を伝えてから10月までに2回は行われている施策改正を審議する会議を通過することはできなかった。当時のメモが残っていないため詳細は分からないが、障害福祉課の担当者は、私からの要望も含めて様々な個人からの意見を伝えても、会議で取り上げてもらうことが難しいと言っていた記憶がある。

9月初めには、市のホームページから市長宛にメールを送ることができたため、障害福祉課に手渡した手紙を再編集して送信した。市長宛の文章には当時の私の状況や考え方がまとまっており、それに対する市からの回答は記録的な価値が高

いとも考えているため、両方とも下記に掲載する。

下記の私から西東京市長宛に送信したメールには、主に4つの内容が含まれている。1つ目は点字ディスプレイについての説明、2つ目は視覚障害学生にとって点字ディスプレイが必要であること、3つ目に最新の点字ディスプレイを使えない自身の現状も書き、最後に周囲の自治体は視覚障害単体の者にも点字ディスプレイの給付を行っていることを示した。メールには上記の図1のように、視覚障害者に点字ディスプレイの購入費を一部または全額給付した東京都の自治体の一覧も付け加えた。

西東京市長宛のメール（抜粋）

私は視覚障害者で、現在立教大学コミュニティ福祉学部・コミュニティ政策学科の1年生として、将来視覚障害者福祉に貢献するための勉学に励んでおります。今日は、日常生活用具の給付制度の、情報・意思疎通支援用具（点字ディスプレイ）について制度の改善をお願いさせていただきたいと思い、メールを送らせていただきました。

点字ディスプレイとは、パソコンに近い性能を持つコンピュータのことです。私のような点字使用者が点字で画面に表示された文章を読み書きすることができます。同じく立教大学に通っている先輩は、全員が最新の点字ディスプレイを持参して、講義に使われるレジュメやレポートのWord文章、そして辞書などを確認しています。

しかし、講義中に私は、約8年前に購入した旧式の点字ディスプレイと、パソコンを使用しています。なぜなら、旧式の点字ディスプレイだけでは、テキストデータやWord文章を読むことができないからです。そのため、パソコンでデータを変換する必要があります。講義中に2台のコンピュータを交互に扱うことは難しく、しばしば先生のお話についていけないこともあります。

さらに、私の点字ディスプレイは辞書機能が組み込まれていません。これに関してもパソコンと接続して辞書を引きます。パソコンとの通信をしながらでは読み込む速度が遅いため、わからない単語を調べるために時間がかかってしまいます。特に、学生同士のグループで、英語やドイツ語の文章を日本語訳する課題を行う際に迷惑をかけているようです。このように旧式の点字ディスプレイとパソコンを接続して学習することは難しく、かなり不便に感じております。

一方で、先輩方のように新しい点字ディスプレイを買うことができれば、これらの状況は改善すると考えております。まず、最近の点字ディスプレイはテキストデータやWordデータの文章を読み込む機能を搭載しています。そして、

辞書機能も組み込まれている物もあります。

東京都に住んでいる同大学に通う先輩方や、他大学に通う同学年の点字使用学生は、給付制度を利用して最新の点字ディスプレイを購入しています。なぜ、東京都の市区町村の中で差があるのか、疑問に感じております。

実は、この件につきましては、大学の入学以前から、西東京市役所障害福祉課の方にご相談をさせていただいております。職員の方々には制度の改善に向けた努力をさせていただいておりますが、重複障害者でなければ給付制度の利用が難しい状態が続いております。

一方で、日本製の点字ディスプレイを販売している会社に問い合わせたところ、2017年11月時点で、東京都内の以下の市区町村で点字ディスプレイ購入のご支援をいただけるとのことでした。

大学では、9月後半から秋学期の授業が始まり、より専門的な講義が行われます。早期により良い学習環境を整えられると幸いです。

どうか制度の改善にお力添えをいただき、点字ディスプレイの購入にご支援をいただけませんか。どうぞよろしく願いいたします。また、ここまで読んでいただきましたことに感謝申し上げます。

立教大学 コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科1年 青木 悠弥

以上のメールに対して、以下のような返信があった。ちなみに以下の文章を掲載することについては、市役所に確認したうえで掲載している。返信の主な内容としては、日常生活用具給付等事業の給付品目や対象者などが自治体ごとに異なっている実情や理由を説明したうえで、事業についての意見や要望が複数寄せられているが全てに応えられていないということだった。

市長宛のメールに対する返信（抜粋）

このたびは「市長への手紙（フォームメール）」にてご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。今回の「日常生活用具給付制度の情報・意思疎通支援用具（点字ディスプレイ）」について回答いたします。

本市においては、いわゆる障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業のうちの1事業として日常生活用具等給付事業を実施しております。点字ディスプレイは、この事業の給付品目の1つで、対象者を視覚障害及び聴覚障害の重度重複障害者とさせていただいているところです。

地域生活支援事業は、地域で生活する障害のある人のニーズを踏まえ、地域の実情に応じた事業形態での実施が可能となるよう、自治体の創意工夫により事業の詳細を決定し、効率的・効果的な取組を行うことから、日常生活用具等給付事業の給付品目・対象者・基準額等については自治体ごとに必ずしも一致していない実情がございます。

当市における日常生活用具等給付事業以外の地域生活支援事業のなかには、他の自治体で実施例が少ないものや他の自治体と比べて利用目的を広げているものもございます。

日常生活用具等給付事業については、いただいたご意見ご要望のほかにも新たな品目の追加・対象要件の緩和など複数のご意見ご要望が寄せられており、全てに応えられていないのが現状です。誠に申し訳ありませんが、青木様のご意見ご要望についてもすぐにお応えすることができない状況です。

引き続き、地域生活支援事業の趣旨を踏まえ、制度の改善に取り組んでまいりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

このたびは、貴重なご意見ご要望をくださりましてありがとうございました。

以上のように市役所の担当窓口や、市民が市長に声を届けるためのメールサービスを使って要望活動を行ったが、期待する効果を得ることはできなかった。少しずつ実費での点字ディスプレイ購入へと気持ちが傾いていく状態だった。

このような状況が進展したのは、11月1日に個人的な興味で行ったイベントがきっかけだった。そのイベントは視覚障害者への支援機器やサービスの展示会で、ビルの2フロアを使って開催される大きなイベントだった。図1や図2等の資料を作り、要望活動のサポートをしていただいた点字ディスプレイ販売企業の方に、当時の状況を相談することができたのである。そこで知ったことは、自治体が個人のために動くと言うことがとても少ないため、他の当事者と一緒に動くことが良いということだった。また、社会福祉法人日本視覚障害者団体連合に問い合わせ、西東京市には視覚障害者の当事者団体がないということも知った。その後企業の方を通じて、東京都盲人福祉協会小平支部に所属する方を紹介していただき、私の活動はさらに進展することになった。

小平市視覚障がい者協会の方の尽力により、私は2019年2月に西東京市市議会の議員の方と会った。そこで私は点字ディスプレイが必要な理由と、西東京市の現状を伝えた。市議会議員の方と対面し直接実情を伝えたことは、市議会の審議で日常生活用具給付等事業について取り上げられる大きなきっかけとなった。

その後西東京市の視覚障害者が集まり、西東京市視覚障害者協会が発足することになった。私は発足時のメンバーの1人として、同協会の理事を務めている。

以上のように、2018年3月から翌年3月までの1年間で、私は自治体に対して団体で交渉する重要性を学ぶことができた。また前半とは異なり必要な助言やサポートをしてくれる方々となつがった後半期間で、要望活動をより効果的に行うことができた。点字ディスプレイを使用する者は非常に少ない。そのため購入費給付に関する施策の改善を求めても、自治体にとって非常に小さな声として施策改善の優先順位が低くなってしまわないだろうか。そこで市政に声を届けるために、然るべき人となつがることができるのかどうか重要な点になることが分かった。私は実践的な要望活動を通して、当事者が声を届けるための情報共有体制の重要性にも気づくことができた。

3. 当事者団体としての要望活動

2019年6月30日に、東京都西東京市内の施設で発会式と総会が開催され、東京都盲人福祉協会の支部団体である「西東京市視覚障害者協会」が発足した。発会式には国会議員や市議会議員の来賓の参加者がいた。この発会式は市政に対して、市内の視覚障害者の存在と、当事者がまちづくりから福祉制度に至るまで様々な政策改善を求めていることの大きなアピールになったと考えている。発会式に先立ち開催された準備会では、私のように個人的に市に働きかけてきた視覚障害当事者もいた。市の視覚障害者の福祉制度を改善するように求める声は複数あっても、それらがバラバラのままでは何も変えることはできないのだと感じた時だった（青木 2019）。

一方で大学2年生になった私にとって、1年生と同じような学習環境で講義についていくことはとても不便だった。この問題については、上記の小平市視覚障害者協会の方の紹介で、筑波技術大学から点字ディスプレイを借用することができた。ここでも、今まで個人ではたどり着くことができなかった情報となつがることで、直面する問題に対応することができたと言える。

私個人が知っている限りでは、団体が発足してから2020年5月に点字ディスプレイの給付要件が改善されるまで、団体として主体的に市に働きかけはできていなかった。ここに関しては、協会内の情報共有体制が不十分な時期と被っているため、今後正しく評価を行えるように確認したいと考えている。

4. 市議会議事録から分かること

西東京市市議会の議事録を調べると、点字ディスプレイについて発言があったことが分かった。発言者は2名いたが、1名は私が2019年2月に直接会った方で、もう1名は同じ政党に所属している方だった。今後インタビュー調査等を通して、

具体的にどのようなプロセスで施策が改善されたのか明らかにしたい。

点字ディスプレイの給付要件について発言の記録があったのは、主に平成31年予算特別委員会と、翌年令和2年予算特別委員会だった。私が議事録を見て驚いたことは、議会での発言に私が伝えた個人の実情が多く含まれていたことである。一方で個人の生活における困りごとについて具体的に示すことで、日常生活用具給付等事業の情報・意思疎通支援用具内の点字ディスプレイに関する施策の課題が具体的に指摘されていた。ここから分かることは、主に3つあると考える。

まず1つ目に、市政担当者の認識を正しいものに変える効果があることだと考える。平成31年予算特別委員会第6日目の議事録に、点字ディスプレイ購入費の給付対象者を「18歳以上の視覚障害及び聴覚障害の重度重複障害者」としているわけを問う発言があった。これに対して福祉担当者は、視覚障害単体の者には「活字文書読み上げ装置」や「拡大読み書き器」、「ポータブルレコーダー」などを給付品目としており、視覚障害と聴覚障害の重度障害者は点字ディスプレイでなければ情報を得ることができないことからこのように定めているという理解をしていた。たしかに視覚や聴覚を使わずに情報を得るためには指で読む点字が有効なため、点字ディスプレイを給付対象としていることは理解できる。一方で視覚障害単体の者に給付される品目は、わずかな視力をサポートする器具か、音声で情報を聞き取る機械である。私のように点字を使用している学生は、講義中に先生の声の聞きながら音声でレジュメを読み、ノートを書くことが難しい。そのため、指で情報を読み取ることができる点字ディスプレイを使用する視覚障害学生がいるのである。このように市政の福祉担当者に実情と異なる認識がある場合、当事者の具体的な事例を伝えることは有効だと考えられる。

続いて2つ目に、当事者の緊急性を伴う要望を伝えることで施策改善の優先度を上げる効果があるのではないかと考える。上記と同様に平成31年予算特別委員会第6日目で、実際に西東京市にはどれぐらい視覚障害と聴覚障害の重度重複障害者がいるのか質問があった。市内の人数は1名のみであり、点字ディスプレイに関しては1件申請実績があるかどうかということになる。この事について質問した議員の方は、「今回、大学生が、ことしの秋の授業から、これがないとついていけないということで、ただ、金額が40万円弱、36万円から38万円ぐらいということで、ものすごく高いものなので、何とかそういうところをカバーしてもらえないかというような御相談があって」という発言をしている。私個人の要望であるが、施策を改善する緊急性を示す効果があるのではないかと考えられる。

最後3つ目に、施策の改善を求めるためには市民の具体的な事例をどのように伝えるかということが重要なのではないかと考える。厚生労働省の調査(2021)で日常生活用具給付等事業全体で、定期的に見直しを行っている自治体は2.3%で、必要に応じて見直しを行っている自治体が65.2%と最も高かった。また見直

しを行う場合の参考情報については、他の自治体の取組状況が89.8%と最も高く、自治体独自の判断というよりは、周辺市町村の状況に応じて検討していることが分かる（厚生労働省 2021）。この傾向から考えると、実際に西東京市の給付要件の見直しは、都内の自治体で視覚障害単体でも給付対象者としてしているところがあったことが施策改善の要因になっている可能性が高い。しかしそれ以前に、必要であれば見直しを行うという点に、当事者の声を市政に届ける重要性が大きいのではないだろうか。今回の施策改善の事例では、私が自身の具体的な状況を市議会議員に伝える場があったことと、議員の方がそれを議会での発言内容として取り上げるという判断をしたことが施策の改善に効果的だったのではないかと考える。

おわりに

以上のように、2018年3月から始めた個人的な要望活動は、周囲の方々のサポートを受けながら、市議会議員を巻き込む大きな流れとなって2020年5月の施策改善に至った。その中で、市政に課題を感じる当事者が集まり、西東京市視覚障害者協会を作るという新たな動きにもつながった。健常者と同等の大学の学習環境を整えたいという個人的な要望を発端に、非常に細かい分野ではあるが自治体の施策の改善につながったことに、私自身驚いている。また小平市視覚障がい者協会の方は、市内に当事者団体が発足してから1年足らずで施策が改正される事例は珍しいと言っていた。社会には視覚障害者にとって不便な面や、改善を求めていく施策が多数あるのではないかと考えられる。今回私自身が経験した成功事例も含めて、視覚障害当事者がどのような活動を行うことが効果的なのか当事者と政策的な視点を踏まえて考えていきたい。

参考文献・ホームページ

- 青木悠弥 (2019)「西東京市視覚障害者協会発足への思い」. 月刊『視覚障害——その研究と情報』2019年9月号. (テキストデータ版のため、ページ数が分からなかった)
- 厚生労働省 (2021)「日常生活用具給付等事業の実態把握報告書」
- 西東京市 (2020)「重度心身障害者(児)・難病患者等日常生活用具給付品目」
- 西東京市 (2017)「重度心身障害者(児)・難病患者等日常生活用具給付品目」
- 厚生労働省「日常生活用具給付等事業の概要」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaihashukushi/yogu/seikatsu.html
- 西東京市「西東京市議会会議録：簡単検索」
<http://www.city.nishitokyo.tokyo.dbsr.jp/index.php/>